学習指導要領や学習評価の改善点（意見発表）

平成２５年8月３０日

市川伸一（東京大学大学院教育学研究科）

◆１　改善の方向性

教科体系の中での知識・技能のみならず、教科横断的な資質・能力や、社会生活を視野に入れた資質・能力の育成を図る。

① 従来の教科内容を学習しながら育成されるもの
② 内容として新たに加える必要があるもの　→　教科等の中に組み入れていく

＜資質×教科マトリックスの例＞

教　科　等

資質・能力

	国語	社会	数学	理科	・・・	道徳
情報活用能力						
批判的思考力						

◆２　教育課程編成上の留意点

１）情報化、グローバル化といった動向は重要であるが、それらが過度に焦点化されることには注意が必要。
２）すなわち、発達と個人差の視点から、「何歳ごろの教育で必要なのか」「国民のどれだけ多くにとって必要なのか」を考慮し、とくに義務教育段階では、内容を精選する。
３）ただし、その精選とは、レベルの低いことに留めるという意味ではない。従来のわが国の教育で不十分であり、早期からの育成が求められることについては、重点的にとりあげていくことが望まれる。

◆３　資質・能力として今後重点的に育成することが望まれるもの

１）教科学習に関連して
　　自己学習力、活用力、探究力、創造性、説明・発表力、討論力など
２）対人関係に関連して
　　共感性、社会的スキルなど
３）社会生活に関連して
　　情報活用能力、キャリア意識、倫理観、社会参画力、社会的問題意識など

◆４　とくに、各教科等の内容や評価方法に改善を求めたい点

１）国語科
　　教科横断的な言語力育成の要の教科として、説明・発表力や討論力の育成を重視

する内容をいっそう重視する必要がある。これらを、一種の実技として、そのパフォーマンスを評価することも考えられてよい。また、文学については、読解や鑑賞だけに偏らないようにし、社会における創作活動への参加につなげることが望まれる。

２）社会科

社会認識力の育成と、社会参画の実践的態度を育成することに重点をおき、評価方法としても、記述式問題、レポート、発表などを大幅に取り入れていく必要がある。

３）算数科・数学科

定型的な問題に対する解法暗記の学習に陥ることのないよう、数学的概念の理解、数学的コミュニケーションの促進、問題解決力や論理的思考力の育成をバランスよく盛り込む必要がある。評価においても、答えを出すだけのテストではなく、概念や解法を説明する活動を含めることが望ましい。

４）理科

実験・観察が重要なことは言うまでもないが、現代人に必要な科学的知識を小学校段階から盛り込み、自然現象や科学技術に対する理解と興味関心を高める必要がある。また、内容の習得だけでなく、自発的な探究活動を促すことが求められる。評価としては、記述式問題、レポート、発表などを重視していくことが望ましい。

５）実技教科（体育、音楽、図工・美術、家庭科・技術家庭）

将来の文化的活動への参加という観点から、個人生活や社会における活動を紹介することが望まれる。社会教育の場との連携も必要となる。

６）英語（外国語活動）

日本における環境や学習者の発達段階に配慮し、発音、文法などの明示的指導の上に立った豊かなコミュニケーション活動を展開する必要がある。小学校段階では、楽しい活動を展開する中にも、習得目標を入れて、中学校への助走期間とすることが望まれる。中学校、高校段階では、ペーパーテストだけでなく、発音、スピーチ、作文なども実技として評価の対象にすることが重要である。また、インターネットやビデオレター等を活用して、外国の生徒とのリアルなコミュニケーションを取り入れることが考えられる。

７）道徳

児童生徒が自らの生き方を考えるのに直結した内容、素材にしていく必要がある。たとえば、人間関係や自己理解、社会人の生き方、倫理と法、偏見や差別といったリアルなテーマをとりあげることが重要である。

８）総合的な学習の時間

児童生徒自身が自らの興味関心に沿った課題を主体的に追究することを中心とし、創作活動や企画運営活動なども含めることが考えられる。